

令和5年度 新発田市遺跡出土品展

新発見の出土品 ～近年の発掘調査から～

令和6年2月23日 [金・祝]～3月20日 [水・祝] / イクネスしばた 展示室
主催：新発田市教育委員会

開催にあたって

新発田市教育委員会では、市内の遺跡から出土した資料の展示会を平成19年度より行っていますが、今回は、近年の発掘調査で新たに発見した出土品を初公開します。

これらの出土品は、いずれも県営ほ場整備事業に先立つ遺跡調査により発見された資料です。

平成28年から令和3年にかけて調査した、中曽根地区ほ場整備の3遺跡、松浦地区ほ場整備の4遺跡、川東地区にある姫田川右岸地区ほ場整備の2遺跡と虎丸地区ほ場整備の1遺跡、および昨秋に調査したばかりの豊浦地区にある滝沢地区ほ場整備の2遺跡（速報）の、縄文時代から室町時代にかけての出土品を展示します。

どうぞごゆっくりと御覧いただき、新発田市の悠久の歴史を感じていただければ幸いに存じます。

なお、発掘調査にあたっては地権者をはじめとする地域の皆様、関係者の皆様に御理解・御協力をいただきました。ここに感謝申し上げます。

滝沢地区の遺跡調査（速報）

1 北野地遺跡 所在地：滝沢字北野地

主な時代：縄文時代中期・平安時代

調査期間：令和5年7～9月、調査面積：279㎡

本遺跡は、本田山の丘陵すそ部から平野の水田にかけての場所にあり、もともとは小高い場所だったと考えられます。調査の結果、縄文時代中期前葉の土器や石器、土偶などが出土しました（写真1）。



写真1 土偶の出土状態（北野地遺跡）

2 堤下B遺跡 所在地：滝沢字堤下

主な時代：縄文時代中期・平安時代

調査期間：令和5年9～11月、調査面積：416㎡

北野地遺跡と同様に水田よりもやや小高い場所に存在します。後の洪水などで埋まってしまった沢の跡からは、縄文時代中期（約5,000年前）の土器や石器、土偶などが数多く見つかりました（写真2）。



写真2 土器発掘の様子（堤下B遺跡）

中曽根地区の遺跡調査

3 菖蒲沼遺跡 所在地：中曽根字鼠谷内ほか

主な時代：古墳時代後期・平安時代

調査期間：平成28年6～7月、平成30年6～8月

調査面積：(延べ)592.6㎡

加治川旧扇状地扇端部の低地に立地し、その範囲は広く、遺跡の北西側は、聖籠町(諏訪山字菖蒲沼)にまで広がっています。水路部分3地点を調査した結果、古墳時代後期(約1,500年前)と平安時代(約1,200年前)の集落跡であることが分かりました。

古墳時代後期については、土師器の杯や甕のほか、他地域の穴窯で焼かれた須恵器の高杯や杯蓋が出土しました。

平安時代については、掘立柱建物5棟、畑跡と考えられる多数の溝を検出しました(写真3)。建物の柱も良好に残っており、柱が沈まないよう、柱穴の底に礎板が置かれているものも見つかりました。遺物は、須恵器の杯類や長頸瓶、短頸壺、土師器の煮炊き具などが出土し、注目すべきは、「𠄎」の記号が記された墨書土器が見つかったことです。新潟県内でも同記号の墨書土器が認められないことから、大変貴重な出土文字資料と言えます。

4 念仏塚東遺跡 所在地：舟入字念仏塚ほか

主な時代：平安時代

調査期間：平成30年9月～11月

調査面積：370.1㎡

菖蒲沼遺跡の南東300mほどに位置する平安時代の遺跡です。水路部分を調査し、並行して延びる複数の溝を検出しました。これらの溝は、周囲よりも



写真3 3号掘立柱建物(菖蒲沼遺跡)

標高がやや高い場所を選んで掘られていることから、当時の道路に関係するものだったのかも知れません。

遺物には須恵器の杯、土師器の煮炊き具があり、墨書土器も出土しました。食器であるはずの有台杯の内面を観察すると、墨が残り、すり減っている部分が認められました。このような痕跡があるものは、硯として使用されたものだと考えられます。

5 中坪遺跡 所在地：中曽根字中坪ほか

主な時代：平安時代

調査期間：平成28年10月～11月、平成29年

6月～8月、調査面積：(延べ)416.1㎡

菖蒲沼遺跡と同様に、扇状地扇端部の低地に立地し、そのなかでも南東から北西へ延びる微高地を選び、平安時代の集落が営まれていました。

水路部分を調査した結果、木製品や加工材が廃棄された土坑(写真4)、区画や排水用として機能した溝、板列などを検出しました。興味深い例として、溝の中に分割された加工材が並べられたように置かれていました。当時、木の乾燥を防ぐ目的で水漬けされていたものと考えられます。また、漆紙文書や漆が付着した土器も出土したことから、木工のみならず、漆を使用した作業を行っていたことがうかがえます。

遺物には、須恵器の杯類や土師器の椀が多数あり、なかには「山」・「一万」と記された墨書土器もありました。そのほかに、須恵器の円面硯、杯蓋を利用した転用硯も出土しました。また、木製品も多く残っており、「稻」と記された習書木簡、斎串、箸、曲物の底板、漆器などがあり、珍しいものとしてヒョウタンで作られたひしゃくも見つかりました。



写真4 7号土坑 木製品出土状態(中坪遺跡)

松浦地区の遺跡調査

6 真栗沢遺跡 所在地：八幡字真栗沢

主な時代：平安時代～室町時代

調査期間：平成29年5～7月、調査面積：725㎡

調査により鍛冶の炉跡が複数見つかりました（写真5）。鉄を溶かした際に生じる不純物のかたまり（鉄滓）や、鉄をたたく作業で生じる細かな金属片（鍛造剥片）が多量に出土しています。出土した炭の年代測定を行った結果、平安時代の遺構と判明しました。また、鎌倉時代から室町時代にかけては、溝で区画された集落の跡が見つっています。溝からは陶磁器や鉄製品が出土しました。

7 助橋下遺跡 所在地：浦字助橋下

主な時代：平安時代

調査期間：令和元年7～8月、調査面積：700㎡

出土した土器の特徴から平安時代前半（約1,200年前）の短い間に営まれた集落だと分かりました。川沿いの微高地を利用した小規模な集落で、建物跡などが見つっています。



写真5 鍛冶炉の土層断面（真栗沢遺跡）



写真6 須恵器 壺の出土状態（助橋下遺跡）

8 興野遺跡 所在地：法正橋字高江ほか

主な時代：平安時代

調査期間：令和2年10～11月、調査面積：292㎡

五頭山地北端部と真木山丘陵の間の小規模な扇状地上の遺跡で、平安時代前半（約1,200年前）に営まれました。周辺ではこの時期に出現する集落が多いことから、土地の開発がほぼ同時に始まったと考えられます。

9 石蔵遺跡 所在地：浦字石蔵ほか

主な時代：平安時代

調査期間：令和3年10～12月、調査面積：734㎡

新たに作る水路部分の発掘調査を行いました。調査の結果、低地を挟んだ両側から遺構が検出されました。遺構は、畑の畝のような浅い溝が並行して多く見つかり、さらに井戸（写真7）や土坑などが見つかりました。畝状の溝の土を分析したところ、イネ科植物のプラントオパール（細胞化石）が多く発見されたことから、農耕に関する溝と考えられます。今回の調査区では建物跡は見つからなかったことから、屋敷周りの畑地であったと考えています。

出土遺物の多くは、平安時代（約1,200年前）の土師器と須恵器で、付近の真木山丘陵で作られた須恵器と、佐渡島（小泊窯）で焼かれた須恵器が出土しています。他の時期の遺物がみられないことから、短い間に営まれた集落だったといえるでしょう。

また、調査区西側は砂礫層を基盤とすることがわかりました。この砂礫層は扇状地末端部の堆積と考えられ、湧水が見られる扇端部の微高地を選んで集落を営んだものと考えられます。



写真7 井戸を半分掘った様子（石蔵遺跡）

川東地区の遺跡調査

10 五斗遺跡 所在地：下三光字五斗ほか

主な時代：平安時代

調査期間：令和元年6月～9月

調査面積：935.3㎡

三光川により開析された河成段丘の縁辺部に立地します。水路部分を調査した結果、土坑や溝を検出し、連続する小溝群は畑作の痕跡と考えられます（写真9）。出土遺物の年代から、平安時代（約1,200年前）の生産域であることが分かりました。

遺物には、須恵器の杯類・長頸瓶・短頸壺、土師器の椀や煮炊き具、黒色土器の椀が出土し、土器以外には、円筒型土製品、石製品（敲石・砥石）も出土しました。

11 菅田遺跡 所在地：東姫田字菅田ほか

主な時代：平安時代、鎌倉時代

調査期間：令和元年9～10月、令和2年6～9月

調査面積：（延べ）712.4㎡

姫田川の右岸に位置し、姫田川により形成された

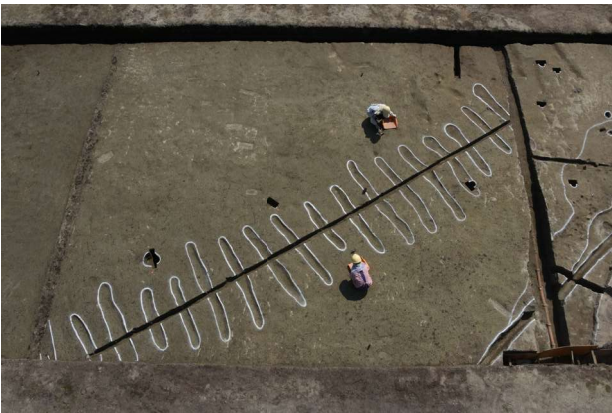


写真9 畝状小溝の完掘状況（五斗遺跡）



写真10 完掘状況（二王子岳を望む、菅田遺跡）

河成段丘の低位面に立地します（写真10）。水路部分2地点を調査した結果、平安時代と鎌倉時代に営まれた集落跡であることが明らかになりました。

平安時代については、土坑、溝、ピットを検出し、須恵器・土師器の食膳具のほかに、土師器の煮炊き具が出土し、土師器の鉢には、焼成前に直径3mmほどの孔をあけた珍しいものもあります。

鎌倉時代については、土坑やピットを検出し、珠洲焼の片口鉢、土師質土器の小皿が出土しました。

12 吉兵衛屋敷遺跡 所在地：虎丸字柳田

主な時代：縄文時代晩期、平安時代

調査期間：令和3年5月～6月

調査面積：（ほ場工事面積）8,873㎡

姫田川左岸の河成段丘の低位面に立地します。ほ場工事時に立会い調査を実施した結果、竪穴建物が見つかり、縄文時代晩期（約3,000年前）の土器や石器が出土しました。晩期中葉（大洞C1式）の浅鉢が潰れた状態で見つかり（写真11）、外面のみならず内面の底にも文様が描かれていることが分かりました。新潟県内でも数少ない浅鉢の例になります。

また、土師器の椀や耳皿、黒色土器の椀も出土し、平安時代の集落跡としても非常に注目されます。



写真11 浅鉢の出土状況（吉兵衛屋敷遺跡）

令和5年度 新発田市遺跡出土品展

新発見の出土品 ～近年の発掘調査から～

編集・発行：新発田市教育委員会 文化行政課

発行日：令和6年2月23日